

成形圖說

菜蔬部

廿五

農商務省
圖書
第九三五號
共三冊

太政官文庫
和書門
類號函架冊
八一九二
三〇

內閣文庫
和書
類號函架冊
八一九二
三〇
九六函一九架

內閣文庫	
番號	和 8192
冊數	30 (25)
函號	196 102

典故

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

成形圖說卷之二十五

内目錄

雲臺

芥

紫蘇

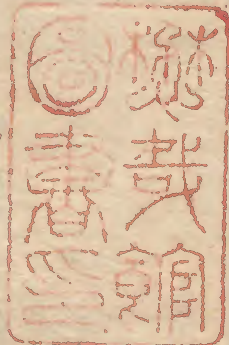
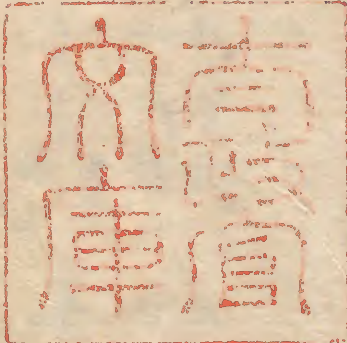
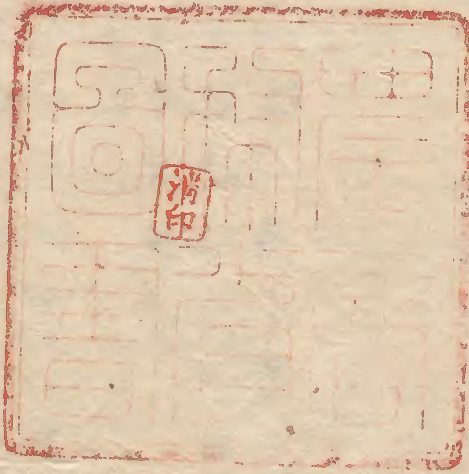
蓼

獨活

番椒

附馬蓼

紅艸



成形圖說卷之二十五

菜部 葷辛類

袁^マ知⁺和⁺名⁺鈔⁺○和訓菜小立の義⁺や⁺り⁺今も菜⁺莖⁺の長⁺

此⁺莖⁺他⁺の菜⁺より高⁺く莖⁺茂⁺起⁺於⁺知⁺の假⁺字⁺と作⁺るハ心得⁺だ

そ⁺の也⁺漢⁺名の義⁺も回⁺し

油⁺菜⁺と榨⁺取⁺りて名⁺く又⁺何⁺が⁺とハ物の膏⁺

此⁺の莖⁺葉⁺の食⁺料⁺と充⁺る故⁺に冬⁺菜⁺とし冬⁺の芥⁺菘⁺と種⁺子⁺菜⁺

唯⁺其⁺子⁺莖⁺葉⁺の食⁺料⁺と充⁺る故⁺に冬⁺菜⁺とし冬⁺の芥⁺菘⁺と種⁺子⁺菜⁺

長⁺の⁺因⁺て呼⁺べ⁺る

莖⁺臺⁺唐⁺本⁺州⁺○和⁺名⁺鈔⁺引⁺本⁺州⁺及⁺七⁺卷⁺食⁺經⁺等⁺作⁺芸⁺臺⁺曰⁺雲

臺⁺二⁺音⁺蓋⁺古⁺注⁺の義⁺如⁺此⁺綱⁺目⁺云⁺分⁺枝⁺必⁺多⁺故⁺名⁺莖⁺臺⁺

寒⁺菜⁺胡⁺菜⁺以上⁺胡⁺臺⁺菜⁺雅⁺埠⁺臺⁺芥⁺沛⁺油⁺菜⁺綱⁺目⁺油⁺

芥⁺書⁺闕⁺臭⁺菜⁺盛⁺京⁺志⁺塌⁺科⁺菜⁺李⁺氏⁺食⁺物⁺蕪⁺渠⁺菜⁺正⁺字⁺芸⁺薑⁺芥⁺

成形圖說卷之二十五

二

成形圖說卷之二十五

二

芥



凡油と酔らまハ菜実と或ハ乾し或ハ秋刈て春爛多ク踏
 白水車牛轉等ハ車と牛ミカハ磨の盤と置て薬礮の
 軸輪の如き端と鍍して曳輶も又榨よ槽と立槽今
 の製あり皆推して其壓楔と絞緊せバ油と淋出たり
 九州南郊の田原度々樹莢或は草菜を焼て火種せり
 巴畑子似るハ馬骨を碎て魚肉を爛して肥糞とん
 菜子油俗ハ謂種子油あり香燈油の料子充るものぞ
 食ふハ毛花を去るべし然ども今料理つらむと宋
 高僧傳云芸薹非五辛之種所食無罪
 氣味生ハ辛冷熱すハ甘温春月これと啖ハ膝脚の痼
 疾と癩故ハ腰脚を患ふものは多食を禁す又能陽氣
 と損し久瘡及口齒の病と癩し小兒ハ腹中の蟲生とい

つり ○主治積聚結血を破血を散し腫を消し又血風瘀
 血と治む 本朝 經驗 ○生じて擣丹毒瘰癧を傳れが子子瘰癧
註食物 ○子主治一切禽獸魚介の毒をわづりぬる子
知新 白湯子和して服み吐を吐して速に愈油も亦白湯子衝
 て服盡し魚骨竹木の刺等の喉に立くらぬる子ありして
 服ときは吐み吐ひて刺脱けし 本朝 經驗

加カ
 良志 即芥也和名鈔引食經辛菜加良士訓は俗
 青芥 訓蒙圖彙系

芥 別名 醫 辣菜 羣芳 芥菘 正字 辛芳 名物 鼠芥 鼠食

而皮毛皆頓落故以名之 雀芥 雀食其實而能飛翔故以名之
 蕃名モヌタールト コロイト

此その子花を黄白と紫あるあり各某芥の名ともて呼
 ぶ又又縹紗菜あり葉を皺紋ありて青翠あり故に青辛
 子ともいへば蓋し大芥の一種あるべし 實辛子
 芥菜小にして実杉似しその花を并き実とむすぶと
 春月と期と寸凡芥ハ秋の半を蒔て春に苗と分栽
 其性暴風を畏るといふ皆その莖葉食料不充實し塩截
 のものも辛香の氣ありて風味賞むべしその子を用ふ
 るハ陳きものをよしと寸愈陳ければよく辛し 味用

の時研て未^コじかむべし未^コとふして貯^{タケ}るものハその氣
 ゆるし○一種^{イッキン}一斤^キ菜とつゝ或はこれと多加^{タカ}奈とつゝ
 此子^ミ黄白の二種あり白まものによしとす俗^{シヨク}子^シ是^シを白^{シロ}
 辛^{カラシ}子^シ江戸^{カライシ}辛^{カラシ}子^シ葉^ハ辛^{カラシ}子^シふどつゝ即^チ白^{シロ}芥^{カイ}あり食料^{シヨク}及^ツ菜^{サイ}
 用^{ヨウ}よりれとよしとすつゝくの園^{エン}みてハ瓶^{ビン}後の^{ノチ}ものを
 よしとすその葉^ハ大^{オホ}くして縹^{ウスモエキ}緑^{キナ}白^{シロ}ある者^{モノ}也^{ナリ}春^{ハル}月^{ツキ}黄^キ花^{ハナ}と
 ひらき食^クと法^{ホウ}ふ形^{カタ}ち白^{シロ}梁^{リョウ}米^{マイ}の如^ニく或^シハ云^{イハ}王^{オウ}世^セ懋^{モウ}瓜^カ蔬^ソ
 其^{ソノ}の黄^キ子^シあるハ黄^キ辛^{カラシ}子^シ刺^{イラ}辛^{カラシ}子^シふどつゝ即^チ刺^チ芥^{カイ}ふ
 也^{ナリ}○西^{セイ}妙^{ミョウ}の高^{タカ}菘^{ソウ}つゝものこよあう勝^{マカ}るゝ東^{トウ}國^{クニ}にて
 は漬^{ツケ}菜^{サイ}と云^{イハ}存^{ゾン}芥^{カイ}の属^{タガヒ}あれば順^{ジュン}鈔^{ショウ}子^シ辛^{カラシ}芥^{カイ}多加^{タカ}奈^ナと云^{イハ}ゆ

この莖^{シキ}を喜^キより夏^{ナツ}かけて培^{シホ}花^{ツケ}とて時の美^ミ蒞^シゝあ唯^{タラシ}子^シ
 は用^{ヨウ}ひび廣^{ヒロ}群^{グン}芳^{ホウ}譜^ポ謂^{イハ}春^{ハル}不^フ老^{ロウ}一名^ニ八^{ハチ}斤^シ菜^{サイ}也^{ナリ}今^{イマ}清^{セイ}人^{ジン}と
 也^{ナリ}春^{ハル}不^フ老^{ロウ}と云^{イハ}べし聯^{レン}珠^{シュ}詩^シ格^{カク}種^{シュ}芥^{カイ}詩^シ子^シ不^フ論^ロ青^{セイ}紫^シ已^イ離^リ
 離^リ芥^{カイ}有^ユ青^{セイ}紫^シ二^ニ種^{シュ}烟^{エン}濕^{シツ}春^{ハル}畦^シ手^テ自^ジ治^チ一^{イチ}笑^{シヤウ}摩^マ掌^{シヤウ}空^{クウ}洞^{ドウ}腹^{フク}是^シ間^{カン}
 儘^{リミ}納^{ナク}幾^キ須^ス彌^ミ爾^ニ晉^{シン}周^{シュウ}伯^{ハク}仁^ニ指^シ其^キ腹^{フク}謂^{イハ}王^{オウ}導^{ドウ}云^{イハ}是^シ中^{チュウ}空^{クウ}洞^{ドウ}無^ム物^{モノ}又^{マタ}
 事^ジ文^{ブン}類^{レイ}聚^{キュ}子^シ載^{サイ}以^イ園^{エン}蔬^ソ十^{ジュウ}詠^{エイ}芥^{カイ}詩^シ子^シ葉^{エフ}實^{ジツ}抱^{ボウ}芳^{ホウ}辛^シ氣^キ烈^{リキ}銷^{シヨウ}煩^{バン}
 滯^チ登^{トウ}俎^ゾ效^{キョウ}微^ミ勞^{ロウ}乍^{シヤ}食^{シキ}驚^{キョウ}頻^{ヒン}噫^イ○菊^{キク}花^ハ子^シ子^シ涼^{リョウ}子^シは心^{シン}急^{キツク}
 短^{タン}氣^キの^ノ子^シ芥^{カイ}ととあすれば辛^{カラシ}と法^{ホウ}とありと云^{イハ}ふと世^セの
 知^チる所^{ショ}あるに危^キ池^チれ方^{カタ}子^シはぬる怒^{イカリ}らしと稱^{チヨウ}つて心^{シン}
 の温^{ユク}々^{ウキウキ}あふ人^{ヒト}子^シとしてさよれば辛^{カラシ}とつとといふ

此は芥子意か其云々はし心持上
 子ぬるのこ蟬流に存、其東、西といふこれその
 各、東、西と説く孫、傳の寺に立、春、大、吉と書けつえ、驚くし
 立、春、大、吉、此四字は裏あり、乃て同し、字、ゆ、急、邪、鬼、う、ち
 へ、ひ、り、て、入、る、あ、ら、ぬ、さ、ら、し、と、云、ば、ま、じ、な、ひ、お、落、べ、し
 逢、坂、之、界、城、と、い、に、は、云、て、心、に、不、定、日、と、物、の、属、多、し、不
 成、日、と、忌、む、人、も、金、銀、宝、貨、を、崇、へ、ば、今、日、は、不、成、日、と
 て、交、通、し、ま、や、吾、む、の、し、の、書、に、不、成、日、乃、半、尺、え、ば、さ、れ
 ば、芥、子、の、お、の、心、お、在、て、他、を、求、ね、理、と、さ、ら、ば、理、に
 は、己、の、心、を、て、存、り、て、一、さ、ら、ぬ、通、理、と、お、り、お、お、と、

ヒトカサカミ
 又、一、層、上、子、立、入、る、れ、ば、乃、理、を、あ、ら、ぬ、と、毎、子、を、さ、す、也
 子、氣、味、辛、薰、て、温、く、鼻、を、火、の、勝、る、人、く、ら、い、ぬ、の、
 ら、似、鮓、田、螺、兎、肉、雞、肉、と、同、食、す、べ、う、ら、び、の、象、ハ、便、血
 痔、瘻、の、人、忌、べ、し、○、主、治、胸、膈、中、の、冷、痰、を、散、し、風、毒、腫、四、
 肢、を、流、て、疼、を、治、と、あ、ら、ぬ、胸、中、支、滿、上、氣、お、お、し、○、嘔、吐、
 并、子、乾、嘔、已、ぬ、ら、芥、子、を、擣、て、末、と、な、し、糊、を、ま、せ、残、を
 攤、肺、を、貼、べ、し、あ、ら、ぬ、凍、死、し、ら、ぬ、ハ、湯、か、て、芥、子、の、末、を
 福、中、海、の、肉、小、填、め、衣、類、を、あ、け、釜、手、悅、と、熱、湯、を、ひ、き、し
 絞、て、其、芥、子、の、上、と、あ、ら、く、と、連、を、朽、し、温、む、し、濟、急、○
 耳、卒、子、聾、閉、ら、芥、子、の、末、と、乳、汁、を、和、綿、を、以、て、耳、を、塞、

べし秘外臺要○小兒五淋カランは芥子カラン大鹿角シカクノツノ鯉イナ焼ヤクゆ末ユメおし

石榴ザシ木と煎じその汁シおて丸めマみぬミとて常ツ此コ如ニく煎シし

用ヨひヒ子シ○耳ミミの疼イタみミハ芥菜カラシと所ト乳チおて調キ耳ミミへ二滴ニツクリおど

入イべし○瘡キズ截キリみハ芥子カラシ人參ニンジン思シ二味ニミ粘飯ネリイヒおて煉チリ合キて類トモ

の眉メジロ此コ間マみ●是コトおどドあアて貼ツクるル一ヒトは脇ワキの中ナカにちりチリを

あアひヒかカゝハ時トキ分ブン子シ貼ツク油アブおオおオ至キマ昨キノ八ヤチ時トキあアをヲ癩カサ子シ今日ケノヒ

九ク時トキみミあアれレバ落オチやヤさサくク眩メクラみミよりヨリ癩カサりリ二ニ日ヒ八ヤチ時トキ子シか

きキババ落オチ小コくクし○歯ハ痛イタム子シ芥子カラシ蒜ヒルとト号ナ分ブン研ケンらラのノしシ残ノコ子シ傳ツタ

痛イタ方カタのノ頰オモ子シ附ツべしベシ但タもモ痕キズ馬ウマあアりリ○筋スネ靨ムシ痛イタム子シはハあ

子シと粉コおオしシ少シしシ湯ユおオこコて痛イタむム方カタのノ耳ミミ子シ一ヒト滴ツクリ入イるル片カタ時トキ

汗アセあアてテ出デにニせ○虻ハチマキ虫ムシとト治ナホにニみミはハ芥子カラシ合キ一ヒト研ケンてテ細ホソのノ痛イタむム

不フ子シ封フべしベシ炭ツギ般パンをヲ取トリ換カてテ封フお○瘡キズ物モノをヲ一ヒトくク痛イタ痰タくクみ

はハ芥子カラシとト搗スリてテ水ミヅおオてテ調キ附ツべしベシ一ヒト上ウ和ワ方カタ○黄ワウ疸タンとト患ウケふフ

子シ芥子カラシをヲ搗ツキふフるルひヒてテ湯ユをヲもモてテ服ウケべしベシ凡ツ日ヒにニ二フタ度タビぐグのノ

子シ芥子カラシのノ七ナナみミてテ一ヒトじジづヅとト用ヨふフ方カタ萬マン安アン

奴ヌ加カ延エン三代サン實ジツ録ロク○即ソレ紫ムラサキ蘇ス也ナリ今イマハ

狗イヌ荏ニン是コト蘇スのノ統トウ名ナ也ナリ野ノ荏ニン以上イゼン本ホン紫ムラサキ叶エフのノ色イロとト

紫ムラサキ蘇ス名ナ醫イ別ベツ録ロク○按オシ通ツウ雅ヤ云ク蘇ス荏ニン辛シ叶エフ之ノ總ソウ名ナ也ナリ紫ムラサキ者モノ曰イハレ紫ムラサキ

菜サイ曰イハレ石イシ蘇ス是コト本ホン艸ソウ諸シヨ書ショいイまマづヅあアのノ説セツあアしシ

蕃名ヲセイニユム

内膳式に荏裏とほるハ紫蘇卷子とて醃截あるべし
此の性濕地と好じ春月種子と布べし其の佳者其を
の身紫子皺ありて鋸齒深く表裏紫色あり依よりれを
縞紗紫蘇とて梅儲及紫田子此とよしとすよろく
花穂と発せしむる肉子の紫と收めざるべしあるひハ
地の乾癆するよろく表青色不變するものありかし
るものは木のけうと芳香も為しよろく一種表裏ともハ
青色荏葉の如くよし芳香よろくさめあり其の俗
よあるひハ青紫蘇とて梅子農圃六書に白蘇といへ

紫蘇



青蘇



紅艸

青蓼

香蓼

馬蓼

るもの是みか 荏子と白蘊といつど六書み荏 今薬用
 のもの魯山城紀伊相摸よとつすまの東部の友園よ
 て荏あふものあ性味おとにまはれり志のれども氏
 間み稀ありその子ハ関東あてハ武蔵處澤ありつす
 あるひハ荏子とめて偽と充るもわり

葉氣味辛温にして芳香あり ○主治氣を下し痰を消す
 ○霍亂脹滿吐下せざるみ生紫蘇を搗汁ととり飲しむ
 べし乾紫蘇ハ煮汁を飲之亦よし ○食滯吐て後紫蘇葉
 せんじ服してよし ○積氣暈倒 ちやくのたろりて 紫蘇
 の葉と水みて煎じ服す急ある時ハ熱湯あて擺出し用

ぞし胎上子臍胸腹脹當飯三分甘州一檳榔子人參川
 き痛し若む是と子懸と云
 芍藥皮白芍藥各半紫蘘一と細小剉て每服半兩水一盞
 半生薑四片葱白七寸許入以上七分煎し滓と濾て空心
 温り振あり○降氣湯腎虚多氣上滞て咳く足みある
 て冷て胸寒已疾寒く喉渴き咳喘き息短く目暈き腰痛
 肢しれ痛く喉かき水と思ひ頭重く目暈き腰痛
 二氣上は蘇子九月子と揉り水入て滓
 り肉桂中火半夏の湯を去り洗と煎り五兩川當飯去て
 前胡米泔二兩浸陳皮三兩甘草二と細小剉合て每服三錢
 水一盞半生薑五片棗一ッ入八分に煎し滓と濾て食後
 服よ滓と代二づび一度小雜て復煎し服よ此薬純氣と

下次昔京師命山人專此薬と用て名譽あり此八味最真
 方也此佗の人參附子五加皮或ハ大腹皮蘿蔔子を加へ
 づハ皆偽方と係ると知べし以上萬安方

多泥萬葉集○即蓼の總名也夕テと其辛辣の手掌と
 痛命ひと夕テと故と名
 香蓼藻塩州○多識
 柳蓼真蓼
 青蓼新六
 紫蓼多識
 藍蓼食鑑

蓼本 青蓼 綱目 紫蓼 本州和名引陶景注紫蓼一名香蓼
 辣菜 正字 委葉 爾雅 苦菜 通雅 陸蓼 兩雅 肅寒郡 假
 柳蓼 真蓼
 香蓼 藻塩州 多識
 青蓼 新六
 紫蓼 多識
 藍蓼 食鑑

節侯 以上事
物異名

蕃名ワートル ペーブル

蓼の属影しその清冷辛香と賞どしとせしものおれど

風什ウタの香蓼カラと依ヨミ来キりいし一ヒトを葉ハの主オモと

用しやどよ万葉ももわの宿のほとで回ユル幹カラはくそやし

実ミもあるまぐみ君とよむ又けめ言ふふより品

うさこしに志シのしみて入イれり穂蓼ホのうさ世の中内膳

式タテマツケの蓼菹シ四斗シ料塩四升シ檢ケンあど何ナニもあぬ穂と塩漬シセ

しありシ禮レ記キ云ク鶉ウ羹メ雞キ羹メ駕カ羹メ釀ヌ之シ蓼シ今イマ蓼シ料リョウの專センとす

又藥料ヤクリョウも蓼シ実ミと用ヨウするあつハ方書ホウショふらえり今イマ是

穂ホよりも葉ハとつういふらわぎとありぬ○一種イチシュ柳蓼ヤナギシ

とて食料シヨリョウとせしものあり葉狭長ハナハナにして細柳葉ホソヤナギハの如ニし

こは本州ホンシュウ和名ワナと香小蓼葉尖カガヤシと云クものや蓋フタく水蓼ミヅシ

の種タネと陸田リクテンとやしあへババかくカク変カるとそ又万葉マンヤクの稚蓼コシ

と詠ヨメるハ即本州ソコ和名ワナと水蓼ミヅシ和名ワナ美都多天ミツタテンとあるして

丹波長平タニハナガヒらの勅ツケ號ナ記キより河蓼カハシといえりこの水蓼ミヅシハ

即蓼シの水中ミヅナカ小生コナマして細小ホソコあるものあり一種冬フユを色イロて

枯カらラあり俗ソコと是コノと冬蓼フユシといへば播磨ハヤシ飾磨郡シカミノハ四ヨ

時トキと穂蓼ホシあり是亦香蓼カガヤシの族ウヂあり赤穂アカホの赤蓼アカシもトウ

夕ユフテテも呼ヨびビて名ナとすスは亦也モトモト形カタハ柳蓼ヤナギシとト同トし又紀伊キイの

大聖穂蓼も世に美種と次今京畿下鴨水の中あが小生
 るその実の水蓼あり葉細長く味極て辣しむより
 の名産より定家の飲又小山に松茸ありに行人ハ如茂
 此川原の穂蓼とぞほむ 蓼葉よく 毒と解け 又相摸高座郡蓼川
 村に蓼川といふ川あり濶さ二三間小るぞ其の川道と
 水中に四時蓼生き極寒の候ハ川道あるハ枯て水中
 のに存じ味微し苦て撿て辛し実小自生の水蓼あるべ
 し爾雅云蕃虞蓼又本州和名は澤蓼 引雑一名女増 陰委
 故以名之 引拾遺 といふものは是あり ○驚甚蓼と畏る故は同食
 といふ 〇本州の木蓼ハ木天蓼あり

青蓼葉氣味辛温少して毒あり多食すれば心痛を發し
 胃口と傷といつり其汁と羹と和ずれば甘味と生を
 主治邪氣と除き氣と利は故は酒醴と釀して風冷と治
 あり ○霍乱と蓼とせんし腰湯とすもよし ○蜂螫と
 蓼葉とみせて貼べし 濟急 ○中暑昏仆として暑はあり
 死する時は濃蓼と煮て飲しむべし或ハ口中小灌ぶよ
 凡薬ハ皆食蓼と用ふ 千金 ○婦人月事來て蓼或は蒜
 と食ふとあかうれ 萬安 ○腫物の痕み毛生ぬみは香蓼
 の實細末し麻油にて潤附べし ○湯火傷湯火傷と原
 書ヤケトコ口と云義ありヤケドハ畧ハ蓼 乾末
 成形圖說卷之二十五

おし柿漆カキシツにて調ナ附ツべし疼イタ愈ユる也蚤シラの痛イタみぬあし○途
 中ナ子コて暑アツ氣ケ子コ申マさるあひ薯カの薯カ生ナ姜カ二味ニ同トしく研ス水
 みてヒ一ツツ、用ユふ○毒ドク虫シの螫サシらるあひ薯カと摩サ附ツてお
 し○又マ方ホウ麻マ油アブを火ヒ燭ロクとして燃モ燭キさるさやうと油ア
 て調ナ附ツべし○鼻ハナ衄ナあひ薯カと接ツてその汁シヅと頼ヒみ附ツべ
 し以上和方○寶ホウ主シ治リ目メと明アあし氣キと下ゲし小兒コ既ス瘡
 と治ツむ○一種ケ毛ケ薯カは亦マ山ヤマ薯カ多タ識シとも乃ノゆユあアと長ナ
 との二ニ不フわワ並ナ子コ白シ毛モと生ナふ接ツて嗅カバカ芳香カホハし其シ長ナ短
 子は尺シツ汁シヅをさるは二尺ニ許コあふ本ホ材ザイ和ワ名ナ引ヒテ兼ケン名ナ苑エン尅カク薯
 とつあみて即ソ本ホ材ザイの毛モ薯カあり○霍カク乱ラン蛇ヘ虫チ心シン痛イみハ山ヤマ

薯カ復フク干カン十ジュウ齋サイ葷コン三サンあ十ジュウ厚コウ朴ホク一イチ番バン椒カウ一イチ甘カン材ザイ少シウ五ゴ味ミ切キ末マツあ
 し糊コあて豌豆トウモロコシのノ大オホ子コ丸マめ二ニ三サン十ジュウ粒リツつ、白シ湯トウみて調ナ
 和ワ方ホウ一イチ○俗ソク淫イン子シ食シク薯カ虫チュウの不知シラ薯カとは性セイ癖ヘキの自ジ其キ非ヒと
 萬マン方ホウ一イチ○俗ソク淫イン子シ食シク薯カ虫チュウの不知シラ薯カとは性セイ癖ヘキの自ジ其キ非ヒと
 知らざる子コ薯カあ契ケツ冲チュウ歌カあお接ツみかど薯カをむ虫チュウと折セ母
 あらん芋イモの切キらるあひ人ヒト習ナひある左サ思シが三サン都ト賊ソクあ習ナ
 子コ薯カ蟲チュウ不能フナ徒ト手テ薯カ菜サイ○魏エイ文ブン子シ云ク薯カ蟲チュウ在ナ薯カ則スレバ生ナ在ナ芥カイ則スレバ
 死シ非ヒ薯カ仁ニ而シテ芥カイ賊ソク也ナリ本ホ可カ不フ失シと凡ソドモ萬マン安アン方ホウに薯カと芥カイと
 合カ食シクと水スイは味ミ
 と失シふとあり
 狗イヌ薯カ本ホ材ザイ和ワ名ナ○藤トウ地チ材ザイも犬イヌ薯カのノ名ナあり凡ソドモ名ナ物モノハ
 幡ハタ薯カ葉エフ又マタ狗イヌとて呼コトバ其シ物モノのノ名ナあり凡ソドモ名ナ物モノハ
 幡ハタ薯カ時トキ珍チン云ク每スベテ葉エフ中ナカ間マ有アル黒クワク跡キ如ニ墨シ點テン記キ○
 きと鬼オニを野ノ薯カ
 て呼コトぶり

番椒 タリガシ



獨活 本草 ○按子獨活類細目亦一條今亦同類子收也

ハ葉類也主獨滑蒙荃 長生艸目細地頭乙扈成方集

以上係獨活 荃本艸○蒙 護羌使者 事物異名

以上係獨活 獨搖艸 別錄 胡王使者 普 兩平艸 輟耕錄○事物

川羌 產者 西羌 陝西產者○以

蕃名 ウーハス

獨活羌活土當帰三の者或は相混以清の劉如金が本艸

述此以辨論やの 本艸述云按本經止有獨活之條謂其為

雍州川谷或隴西南竝是羌地故本經所謂羌活者即是獨

活非二種也然陶隱居言羌活出羌地而益州西州者為獨

乃是一類二種以中國者為獨活西羌者為羌活正如川芎撫

芎白朮蒼朮之義入用微有
不同後人以爲二物者非矣
按子獨活羌活一類二種小
て其功味自別わ獨活は風濕と散し羌活は水濕と逐
ひ終く關節を利はとわるが如し是あり蓋大明が日華
本草子獨活是羌活母也の説を因て莖根を分別て二活
乃稱と命やその物嘗て本藩産する所二種をもて海
外子實問せ時清人陳大枝高萬年陳倬為が輩この字
度と以て獨活也とし又陸謝雨陳際為等鹿宇度と指し
て羌活也と鑑定やその説い前古に紀載を歴擧して
若へま極み今茲子併せ登て二活の考證と凡食物
子申ると宇度と稱へ度是年と味ぶ要する所山部家園

の異あり形質を亦狹葉潤葉乃別あり但野生と移して
園子極れを大氏一種とあり今俗に園子嘗るその
哉宇度と唱つる妻者根より嫩芽と生ぬ京師峨峨山
わのま子出るその花宇度と名く庭洲生来子醒醐鳥
頭牙と出ればむらしより名とせしあり○凡嘗
獨活の法ハその根と秋月より土窖子蔵て塵芥と厚く
覆ひ紅白乃芽と發さし秋の季よりして春晩まで市
に鬻ふとなりその春に細つゝの根の尖子紫の莖いつ
はと芽ウドとつゝ二三月莖を生して節小短き草ゆり
上ハ紫子下碧子根白し地の葉莖は楕木乃取ありて刺

かし但肥太きり六月白子小花攢開色黄ありと紫とわ
り実と結ぶ葉黄ありありは石の上に生ふる氣
を又夏より秋まで青色の莖を取ると皮と削き
穰と奇蔬と云ふおとやみ冬月その故莖を害育し
川或ハ缸桶の中へ納て肥土をまて昔ハ暖處に生ハ亦
節々よの紫花を登りその状ハ上尖り下蹟りて巨獸
の爪乃如し豊とウド芽と稱へ羹中の芳氣を助るの實
と凡、暖地ありハ時先づちて花も実も花も
皆子し○菜用の獨活と云ふハ皆山中自生あり莖葉子
毛ありと糙澀根の皮白く臭氣濃く味甜ハ却て

下ふあり根の皮黄く氣芬味辛子或真と云但夏月子採
收るものは輕虚ありて宜しからざる實は種子をのかれ
ど内実とちと採り取つしそをく志々宇度此最上は奉
藩日向諸縣那處々の山中に自生せるもの時節をもて
根と採り日乾さすハ香氣清芬て液澄れ羌活子異か
らざる但形質は漢の獨活に似て羌活よりは近々凡、江
門等の峰上子售前の羌活獨活ありハ迥子孺なるおと
数倍あり関東の二活ハ多く信濃上野等所あり出
次に山中自生此シ、ウドと採て其莖と羌活と稱へ其根
と獨活と稱ふ二種とち極く鄙しき不あり又羌活と

称するもの一二種あり竹節根ダケノコ京師清涼川高橋山子イゲ
 るもの紫莖の節深紫ありて香氣ありとよみ志くれど
 りおし流る嵐山の花ウド菘ヤブウドあどりよもの大回
 小異あるものお園子ヤシナ菘へば亦食料に充アツづし
 獨活味苦く辛し性微温ありて毒なし○主治痛風の證
 ある人常子モヤシ等菜のウドを食して又常子モヤシ獨活一味水
 み並ニ焙て杖コノコと取ク○産後中風と治るもの獨活ドクワ粉コ黒豆
 一ヨキ美酒ニスヒトツ升一馬豆と炒イリて熟アツキかぐ海の中イ入イて口と封フキ
 て大豆の氣イキと出イキさイキぎイキまでイキの酒イキみて獨活ドクワの粉と
 七一づ、用ふ○小兒手足ふるひにあり味と香と治る

獨活青皮セミンヌケカラ蛇蛻サヒコの霜白朮セ各一分三サ甘料サ六味サ細末サし
 綠豆フメナリわどに丸め二三粒づ、湯サめて用サふべし一上方サ
 ○中風の口と禁齒トキとくひつめてヒラカ開サざるもの獨活ドクワ三桂サ
 心ニ一分サ養末アラクふし酒二盞水二盞入合サて三盞ニ煎サかして
 滓カスと濾コしサ後サ分サて湯サめし口とこちわめて服サ志サめふ
 ○齒の根動ユルキて且痛ニタみハ生地イシム獨活ドクワ各三サ細子サ割サと水二
 盞入サて一盞半ニ煎サし之と嗽ウカへ又煎サせどサと水サにヒクシ漚サ
 て口サに御サて宣サし○産後吐逆サ逆サみ羌活サ附子サ葱サ香サ炒サる
 各サ一服サみサて愈サべし一上方サ
 服サふ一服サみサて愈サべし一上方サ

唐芥

即番椒也芥菜ノ依て命せし名あり

南蕃胡椒

或説は原の種と蕃國より漢に傳る南蕃胡椒

九州地方は胡椒の味辛し故に胡椒ハ即蕃地

蔓州の味辛し故に胡椒ハ即蕃地

高麗胡椒 或曰豊大胡胡椒 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

唐芥

即番椒也芥菜ノ依て命せし名あり

南蕃胡椒

或説は原の種と蕃國より漢に傳る南蕃胡椒

九州地方は胡椒の味辛し故に胡椒ハ即蕃地

蔓州の味辛し故に胡椒ハ即蕃地

高麗胡椒 或曰豊大胡胡椒 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

胡椒 胡椒西 胡椒西

ケレインランガウブルヒゲスピッツレクト
ラップスターンテブラジリオンペーブル

イロニシリタウカラシ
雑色番椒

ブラジリオンペーブルメツテランガハウウエン

エドメウカラシ
江戸番椒

此種コトの皇國ミコクは入イしハ文祿モンロクの比ヒハ煙艸エンソウと共モトニ将来キタ
るルハ西土モロコシより始ハジテ明季メイキは渡ワタるルよし彼の史カシ乘シは
見えミたり今ハ山椒サンカウ生ナ薑カウの右ミキリは立タまマり其ミ實サダ累ツ々ツ深フカ紅ベニ
ハ色愛イロコイにべし或ハ筆頭フデの如ニク椎實シノミの如ク或ハ櫻桃ユスラの
實ミ櫃エの實ミ亦モ似ニテ或ハ攢生サンセイ或上向ウヘムキ其大小長短尖圓肥
瘦亦雅趣オモキあり大オホあり小コあり其長ナガ寸サツ小コいハうウ。幹立カラダチ
ハ七八尺ハチナナシは近チカし頃間チカゴロ花師ハナヤ養得ヤシて目メて一丈紅イチヤウベニこコいハ小

あるは鳩トビ爪ツメの如クし目メて鷹爪タカノツメといハふ大オホあり小コあり其王瓜カラスウリの
如ク微尖オシホリあり目メて胡類胡椒コグミと云ハふ小コあり其南天燭子ナンテンソウジ
の如クし其ミ實サダ上ウヘは向ムカふとトハ天上守テンシヤウモリあハいハ呼ヨぶハりハ 蓮生レンセイハ
花子ハナコ儼ゲン如ク又下シモは垂ツルるルものと無胡椒ムカシとも下胡椒シタカシとも称ナ
ふ一種短肥ヨコフタあハいハ味辣カラあハいハ甘アメきものあり是コトを甘アメ
唐辛子タウカラシといハふ黄熟キイロのと黄唐辛子キタウカラシといハふ金橘キンキウの如クき
と金柑唐辛子タウカラシあハいハ呼ヨべハり其種族シユ多く皇國ミコクに入イテ化カ
生ナるルあり盖暖地カハは生ナるルもの多オホシく辣カラし本藩南邊ホンハンナミエは生ナ
るルハ愈イ太トく愈イ辛カし其木冬キカとト呼ヨべハり槁カれハり又南島ミナミシマは及キび
沖繩オキナワはハいハて皆木本キタネとありてハり四五尺イハヒは長ナガつハり宛マ

然として一灌水カニシキウククに似たりさカハ椒カニシキウクク属カして南方の水
土カは應カひその本邦西土カに入てハ自カ艸カ木カと夏カまると
そ亦カ奇カむべし

氣味辛熱カとして小毒ありにほく食へば宜しカつカ必
目と昏カし血と破カ了瘡と生カし胎と墮カ次瘡家尤いじカ至し
その毒ハ黑豆カふて消カべし因て味醬豆醬カと和カて煮カる
がよし○寒月カ登と塗カは此細末カと泥カと和カれハ凍凝カせカ次
とつカり又氣穴カと董カぐれと氣逃去カとあり○主治食と
進め又食と消し能カ胃口と開く又魚菜カの腥氣カと殺カく細
末カとあし糊カは丸カめとらカつれハ腹痛寒疝腰痛及四肢の

痛と治カ法木綿の袋カに番椒カと納カて帯カとをカれハ腰寒
ぞ又住處カの席カの下カは布カハ溼カと拂カふ○或書カは曰旅行軍
陣カ多の驛旅カあるともの必番椒カと持カて毎カ食カつ至し
寒熱共カよく防カき救カふと凍カてかカあカらカざるカは此末と
塗カてよし又西瓜カあて食傷カせしと解カあり○漬カは尚青
き中に搗取カて紫蘇葉カあて裏カに塩カと漬カ石カとて歷カとカ甚
しき辣カうカせて食カと進カむべし○海膽カ唐芥カ即カ番椒カ膏カ是加賀の
國カよてある寺僧カの製カものありと番椒カと煎カ煉カて錫飴カ
のカあして遠カきと送カるなりその根宛然カ満カ後カ揚カと塩カ
凝カせしものカおカれカは名カくその辛辣カ殊カは猛烈カし○

